

令和3年度 事業報告書

社会福祉法人 平群町社会福祉協議会

(自) 令和3年4月 1日

(至) 令和4年3月31日

令和3年度 事業報告

□ 概要

令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」）の収束が見込まれないなか、平群町社会福祉協会の（以下、「当会」）が推進してきた地域福祉活動も大きな影響を受け、多くの事業の一時中止などを余儀なくされました。

そのなかでも、対面型の活動や住居の確保など各種事業については、「制限があるなかでどうすれば、事業を継続・実施できるか？」を念頭に置き、感染予防対策やオンライン形式を積極的に取り入れるなど、創意工夫を図りました。その反面、感染対策としてのオンライン化が急速に進むなかで、地域内での孤立・孤独化、ひきこもり、虐待、貧困などが潜在化するという課題にも直面することになりました。これらの課題に対しても、いままで当会が培ってきた、「地域に出向き、地域に根差した、寄り添い型の支援」を展開し、「支える側」「支えられる側」という概念を超えた、新たな「つながりづくり」の仕組みの構築に向けて、各種事業を実施しました。

法人運営に関しては、引き続き組織運営のガバナンス強化や財務規律の強化などに努めました。加えて、各種制度・事業に対して法的対応力の強化のため法律顧問契約を締結し、職場における各種ハラスメントへの対策などを実施しました。また、大規模災害の発生や感染症の流行に備え、業務継続のために平時から準備・検討しておくべきことや、発生時の対応などをまとめた業務継続計画（BCP）の作成に向けて取り組みを行いました。

地域福祉活動の推進に関しては、コロナ禍における「つながりの継続」のため、生活困窮者支援に重点を置き、生活福祉資金貸付事業（緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付を含む）、COCORO便事業などを実施しました。小地域ネットワーク活動や地域食堂（こども食堂）の運営などの支援、小・中学生を対象にした福祉教育の一環として各校において出前講座の開催など、日ごろから地域福祉活動に取り組む各種団体や地域住民や支援者、また行政機関などとの連携や協力のもと実施しました。

老人福祉センターかしのき荘、ふれあい交流センターの指定管理業務については、行政などの指示のもと、新型コロナ拡大予防対策の徹底を行い、一定の利用制限があるなかでも、高齢者や地域住民の交流の場、また、介護予防の拠点としての役割を担うために各事業を実施しました。

在宅福祉サービスについては、コロナ禍によりサービス提供体制の確保が困難ななか、利用者の自立支援や要介護状態の重度化防止など、利用者が住み慣れた地域で生きがいを持って生活できるように各事業を実施しました。また、職員の専門性を高めるための研修会の開催、災害時などに備えたICT化によるデータ管理システムの構築など、安定してサービスの提供をできるように基盤づくりにも取り組みました。

地域包括支援センターにおいては、高齢者などの地域住民が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるよう、包括的および継続的な支援を行う地域包括ケアシステムを推進するため、各種事業を実施しました。また、住民運営の介護予防の取り組みへの支援や、高齢者などの生活を支えている専門職に対する研修会の開催やネットワークの構築などにも取り組みました。

総務地域福祉係

【 全体評価 】

法人運営分野については、理事・監事の改選（任期：2年）、評議員の改選（任期：4年）を行い、新たな運営体制のもと、経理規程の改正や職場におけるハラスメントの防止に関する基本方針の策定などを行い、適切な組織運営・透明性の確保などに努めた。

地域福祉の推進については、昨年度に引き続きコロナ禍の影響により失業や世帯収入の激減などで生活困窮に陥った世帯などに対して、生活福祉資金貸付事業（特例貸付含む）やCOCORO便事業などを実施し、関係機関との連携のもと相談者や利用者に寄り添い、必要とされる支援を実施した。

また、各小中学校に対しては、福祉教育の機会として、「コロナ禍においてのつながり」をテーマとした内容などを新たに追加し、児童・生徒に対して出前講座を開催した。

小地域ネットワーク活動については、住民同士のつながり継続のための取り組みや活動者が一堂に会する「ふれあい会」の開催、ICTを用いた他町活動者との交流会の開催などを行った。また、地域食堂（こども食堂）の立ち上げに関して、側面的な支援を継続した結果、地域住民・民間事業者の共同による新たな運営方法による「居場所」の設立を実現することができた。

事業名	実施日時等	内容
理事会・評議員会・監査	理事会 5/27 6/24 3/23 評議員会 6/23 3/31 評議員選任解任委員会 6/24 監査 5/18	審議事項 ○令和2年度事業報告並びに収支決算について ○次期役員（理事・監事）の推薦について ○評議員選任解任委員の選任について ○評議員の推薦について ○定時評議員会の招集について ○次期役員（理事・監事）の選任について ○評議員の選任について ○会長・副会長・常務理事の選定について ○令和3年度地域福祉事業拠点区分、介護障害事業拠点区分資金収支補正予算について ○令和4年度事業計画並びに収支予算について ○経理規定の一部改正について ○その他、業務執行状況報告 など
	【 事業総括 】 理事・評議員・監事の改選が行われ、新たな運営体制のもと、適正な事業運営を行い、理事会・評議員会および監査の実施、組織運営・各種事業についての協議などを行った。	
経理・会計・労務管理 契約関係	年間	社会福祉法人会計基準に沿った会計処理を行い、雇用・人事・労務管理体制の整備・充実を図った。
	【 事業総括 】 社会福祉法人会計基準にもとづき適正な会計処理に努めた。各種法令や規定を順守し、組織運営の基盤整備に努めた。	
	年間	一般会員一口1,000円、特別会員一口5,000円で会員を募った。 ○会員数 300人（特別会員1件） ○会費合計 540,000円

社協会費	<p>【 事業総括 】</p> <p>コロナ禍が続くなか、昨年度と同数の方の協力があり、会費総額については前年度より増加となった。今後も、地域福祉活動や社協だより、ホームページなどをつうじて社協組織や会費制度をより一層身近に感じてもらい、地域住民の理解と協力を得るための取り組みを行っていく。</p>	
情報公開	年間	希望者に文書を開示し情報を公開することにより事業の理解と信頼を深め、公正で開かれた住民本位の社協運営に努めた。
	<p>【 事業総括 】</p> <p>速やかに開示できるよう、今後も適正な文書整理・管理に努め、地域住民の信頼に応え得るよう努力していく。</p>	
生活福祉資金貸付事業 フードレスキュー事業	随時	生活課題を解消するため資金貸付が妥当であると考えられる低所得者世帯に対し、貸付を通じて自立を支えた。 コロナの影響で減収となった世帯などに対し、生活困窮の状況を把握したうえで資金貸付の申請を受け付けた。
	<p>【 事業総括 】</p> <p>高校・大学進学時における入学準備にかかる費用などについて貸付相談に応じ、迅速かつ臨機応変に事務手続きを行った。</p> <p>また、コロナ禍で浮き彫りとなった「生活のしづらさ」「生きづらさ」を持つ相談者に対して、特例貸付の利用や各種相談機関との橋渡しの役割を担った。</p> <p>○生活福祉資金貸付事業 相談件数 延べ 261件（うち新型コロナ特例貸付延べ 229件） 貸付件数 従来貸付 4件 福祉資金 2件（福祉費）、教育支援資金 2件</p> <p style="text-align: right;">特例貸付 118件 緊急小口資金 39件 総合支援資金（初回） 35件 総合支援資金（延長） 7件 総合支援資金（再貸付） 37件</p> <p>○フードレスキュー（緊急食料支援）事業 実施件数 0件</p>	
日常生活自立支援事業	年間 (月～金)	判断能力が不十分な方が福祉サービスなどを利用する際、自己決定をできる限り尊重し、その意思の実現に向けて援助した。 利用契約者数 2名 延べ利用回数 10回
<p>【 事業総括 】</p> <p>1名の利用者については、施設サービスの利用および親族の支援につながり年度内に契約が終了した。また、認知機能および身体機能の低下にともない、在宅での生活が困難となられた利用契約者に対しては、関係機関との連携のもと成年後見制度の利用につながることが出来た。</p>		

<p>日本赤十字社平群町 分区活動</p>	<p>随時</p>	<p>日本赤十字社の平群町分区として、奈良県支部や日赤奉仕団とも連携・協力しながらさまざまな活動を行うとともに、活動資金（社資）募集に対する協力依頼を行った。</p> <p>○社資募集実績：自治会・個人 1,163,624円 ：法人 298,000円</p>
<p>平群町共同募金委員会 (共同募金活動)</p>	<p>10月～12月</p>	<p>平群町内で福祉事業を公募し、目標計画・助成額を決定した。運動実施期間中に、戸別募金・街頭募金・篤志家募金・募金箱設置を行い、目標金額の達成を目指した。</p> <p>○目標金額 2,001,000円 公募事業数 10件 ○募金総額 1,931,161円</p>
		<p>【 事業総括 】</p> <p>コロナ禍のなか、「つながりを絶やさない社会づくり」を掲げ感染予防対策を徹底したうえで駅頭・店頭募金運動を実施した。町主催のイベントについては2年連続で中止となり予定していたイベント募金は未実施だが、地域振興センター主催の「フラワーフェスタ」、ディアズコープ竜田川主催の「環境ラリー」においては主催者側からPRブースの提供をいただき募金運動を実施した。</p> <p>寄附いただいた募金の使途について明記した「ありがとうメッセージ」を全戸配布するなど、コロナ禍が長引き厳しい社会情勢のなかにおいても、協力者とこれまでの関係性を切ることなく丁寧に活動に対しての協力依頼を行ってきたことで、自治会・企業・学校・各関係機関など一人ひとりから心のこもった寄附をいただくことができた。</p> <p>今年度は、目標額を達成できなかったが、申請団体に対しては要望額どおり助成金の配分を行うことができた。</p>
<p>善意銀行</p>	<p>年間</p>	<p>地域住民の善意による金品の預託を受け、効果的に地域に還元することにより地域の社会福祉増進に努めた。</p> <p>寄附件数 13件 150,000円</p>
		<p>【 事業総括 】</p> <p>住民の皆様より提供された金銭・物品などについて、適正に管理を行った。</p> <p>今後も、地域福祉の向上に活用される寄附の窓口として制度の周知にも努めていく。</p>

<p>団体事務局</p>	<p>年間</p>	<p>コロナ禍においても、地域福祉の発展のため、民生児童委員協議会・身体障害者福祉会・日赤奉仕団・ボランティア連絡協議会・更生保護女性会・小地域ネットワーク連絡協議会などの事務局として活動運営を支援し、感染防止を徹底しながら、各団体と連携を図った。</p>
<p>【 事業総括 】 コロナ感染予防に細心の注意を払いながら、それぞれの団体の活動と社協活動との連携を図るなど継続的に支援を行い、事務局業務を通じて団体活動の支援に手掛けた。</p>		
<p>福祉有償運送事業</p>	<p>年間</p>	<p>介護保険制度の要介護・要支援（事業対象者）認定を受けた方および障害者手帳（身体・療育・精神障害者保健福祉）をお持ちの方を対象に、医療機関・公共施設・金融機関、日常の買い物先などへの移動支援を行った。 延べ利用件数 1925件</p>
<p>【 事業総括 】 公共交通機関の利用が困難で一定の条件をお持ちの方に対して、医療機関・公共施設・金融機関・買い物場所への移動支援を行い、日常生活の維持および社会参加の促進などの支援を行った。 コロナ感染予防対策として、利用者・付き添い者へ乗車前の検温および体調確認、車内においては換気・アルコール消毒を行うなど、利用者へ安心・安全なサービスの提供に努めた。また、運転ボランティアに対しても、運行前の検温およびアルコール検知器を使用した酒気帯びの有無の確認を実施し、安全運転に努めた。 ボランティア間との意思疎通・情報共有を図るための定期的な意見交換会の実施、また、運転ボランティアの募集についても、社協だよりへの記事掲載や募集案内チラシを町内店舗に掲示などを行い、活動者増員につなげた。</p>		
	<p>随時</p>	<p>子ども達がボランティアを身近に感じ、心豊かに成長できるよう、学童期からの福祉教育の推進の一環として、各小中学校へ各種情報提供や、講師派遣の連絡調整などの協力および出前講座を実施した。</p>

<p>学校ボランティア連絡会</p>	<p>【 事業総括 】 町内の小中学校に対しボランティア協力校助成金交付を行い、福祉教育やボランティア精神の普及につながる情報提供や支援に努めた。 各種福祉教育の出前講座（出張ふくし・にこにこ講座）については、令和2年度はコロナの影響で実施することが叶わなかったが、教育委員会をつうじて教頭会での説明および再訪問による趣旨説明を行うことで先生方の理解を得ることができ、オンライン開催も含め出前講座を実施することができた。</p> <p>【 R3年度出前講座実績 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○車いす体験/社協（平群小学校・5年生・2クラス） ○コロナ差別問題/社協（平群小学校・5年生・2クラス） オンライン ○コロナ差別問題/社協（平群中学校・1年生・3クラス） オンライン ○コロナ差別問題/社協（平群南小学校・6年生・1クラス） ○手話教室/手話の会あゆみ（平群小学校・5年生・2クラス） ○点字教室/点訳サークルどんぐり（平群小学校・5年生・2クラス） 	
<p>福祉機器貸し出し</p>	<p>年間</p>	<p>一時的に福祉機器が必要となった方に対し、一定期間無料で車椅子などの貸出を行った。 延べ貸出件数 37件</p> <p>【 事業総括 】 コロナ禍で外出の機会も減少し、それに伴い福祉機器の貸し出しも減少傾向にある。メンテナンスもボランティアのご協力をいただきながら、貸し出し体制の充実に努めた。</p>
<p>ボランティアセンター</p>	<p>年間</p>	<p>ボランティア保険加入促進・助成金などについての各種情報提供を行い、ボランティア活動者や関心を持つ地域住民へ向けて、ボランティア講座を開催した。</p> <p>【 事業総括 】 コロナ禍において活動が制限された団体が多くみられたが、工夫をされ活動を再開されている団体も多くあり、新規でボランティア活動をしたいとの相談も寄せられ、情報提供などの支援を行った。 今後も、ボランティア活動を推進する拠点として、相談体制を整えるなどボランティアセンター機能の充実に努める。</p>
	<p>2/10 【中止】</p>	<p>ボランティア活動者や、ボランティア活動に興味のある地域住民を対象に開催した。 内 容：『 心で聴いて相手の気持ちに寄り添う傾聴ボランティア講座 』 講 師：吹田傾聴ほほえみ 代表 長谷川美津代氏</p>

ボランティア講座	<p>【 事業総括 】</p> <p>近年、核家族化、高齢化が進むなか、地域のなかで悩みを相談する相手がおらず孤立し詐欺被害や孤独死など問題となっている。またコロナ禍で外出を控え家に閉じこもりになることで健康への影響が危惧され、心身や脳の機能が低下している。こうした不安や悩みを解消する傾聴ボランティアの役割を広く知っていただき、支えあい活動を考えるきっかけづくりと傾聴ボランティアの必要性について学ぶことを目的に開催を予定していたが、コロナの感染状況を踏まえやむなく中止した。</p>	
社協だより発行 ホームページ公開	<p>12回 (毎月発行)</p>	<p>福祉に関するさまざまな情報や、介護予防・生きがいづくりに役立つ情報を掲載した。ホームページについても積極的に活用し、幅広い年代に情報が届くよう、工夫した情報発信を行った。</p>
小地域ネットワークづくり	<p>年間</p>	<p>春日丘、緑ヶ丘、北信貴ヶ丘、御陵苑、初香台、上庄台・月見台、椿台、光ヶ丘、平等寺、ローズタウン若葉台、若井、吉新、三里、西宮、菊美台、若葉台、椿井の17ヶ所で活動されている既存団体について、助成金の案内や活動における相談支援などを行った。</p> <p>【 事業総括 】</p> <p>昨年度に続き、小地域活動が一斉に休止しサロン活動を定期的に行えないなか、住民同士の絆がコロナ禍で途切れてしまわないよう、「集まらないなら会いにいこう〜♪」を合言葉に「コロナに負けるな！ふれあいプロジェクト」の第三弾として、ひまわりを各地域の世話人が発芽させ、一人暮らし高齢者などの気になる世帯等へ配布、一緒にひまわりの成長を見届けた。活動者が一同に集まる「ふれあい会」の会場にブースを設け、各々に育てたひまわりの写真の展覧会を開催した。また、第四弾は、寄附として預かった靴下を支援が必要な世帯などへ配布した。</p> <p>代表者会議については、感染対策を行ったうえで予定どおり年4回開催し、コロナ禍での工夫した活動についてなど、各地域活動の情報共有を行った。3月は、田原本町の地域活動者とオンラインにて交流会を開催し、先駆的な活動についての情報の提供や活動者間の交流の機会となった。</p>
	<p>年間</p>	<p>コロナ禍で形を変えて活動を再開した「地域食堂おかえり」について側面的に支援した。また、新たに活動を希望する住民の希望に沿いながら立ち上げ支援を行った。</p>

<p>地域食堂（子ども食堂） 運営支援</p>	<p>【 事業総括 】 コロナ禍で活動が中止となっていた「地域食堂おかえり」活動者より、形を変え活動を再開したいとの相談を受け、代表者の居住地でもある「御陵苑」の自治会長へ自治会館の使用許可や活動再開に向けての協議を行った。結果、自治会館に拠点を移し、高齢者や子育て世帯へ活動者が訪問し、お弁当を届ける方法に変更し、顔の見える関係づくりや地域間交流の機会となる活動を継続されている。 また、新たに「子ども食堂を立ち上げたい」との住民からの相談に対して、同じく地域福祉を推進するならコープと協議を重ね、「ディアズコープ たつたがわ」内にて、子どもを真ん中に誰もが集える居場所として「ろっく café」が3月にプレオープンした。</p>	
<p>心配ごと相談事業</p>	<p>年間</p>	<p>面談は予約制にて、木曜日の午前中にプリズムへぐり内の相談室で開催した。専用電話による相談も実施した。 相談件数 159件（精神衛生159件） （面談13件・電話146件） 専用電話：45-8088 相談員：民生児童委員（3名）</p>
<p>療育教室 【 受託事業 】</p>	<p>月3回 （第1～3火曜日） （6月 1回中止） （7月 同窓会中止） 12月週1回 （年少参加児が少人数）</p>	<p>発達に見守りが必要な幼児や育児不安などで悩んでいる母親に対し、集団行動をつうじて遊びや親子間の健全な成長につなげるよう支援を実施し、当町における子育て支援の一端を担った。 実参加幼児数 20名 延べ参加幼児数 282名</p>
<p>生活訓練事業 【 受託事業 】</p>	<p>全5回</p>	<p>【 事業総括 】 コロナ感染拡大防止で教室を中止せざるを得ない期間もあったが、参加児童は小さいながらも手指の消毒や検温をすることを理解できるようになり、日々の成長を感じる事ができた。教室での集団生活をとおしてさまざまな経験を積むことができ、一人ひとりのきめ細やかな発達の援助について、指導員や町保健師、ボランティアの方々の協力を得て実施することができた。</p>
<p>生活訓練事業 【 受託事業 】</p>	<p>全5回</p>	<p>障がい児（者）に対して日常生活上必要な知識や生活動作を身につけていただき家庭で役立ててもらえるよう事業を展開した。 開催日数 3日（感染拡大により2回中止） 実参加者数 4名 延べ参加者数 8名</p>

	<p>【 事業総括 】</p> <p>外出して買い物をする、環境エネルギーについて考えるなど、生活に即したプログラムに参加していただいた。参加者には、「やってみたいこと」「やろうと思ったこと」を達成したことに対する自信を持ってもらうことができた。</p>
レスピット事業 【 受託事業 】	<p>夏休み 冬休み 春休み</p> <p>療育手帳の交付を受けた児童および知的（発達）障がいや、それに準ずる学齢期の児童・生徒の長期休み（春・夏・冬）時に集団活動、過ごす場を提供。保護者の一時的な負担の軽減となるよう努めた。</p> <p>開催日数 10日 実参加者数 5名 延べ参加者数 19名</p> <p>【 事業総括 】</p> <p>参加定員に対し、半数程度の少人数の参加者となったが、その背景にはコロナ感染に対する懸念があり参加を控えたのではないかと推測している。</p> <p>1対1のペアで見守る生活協力員が参加児童とコミュニケーションに多くの時間を費やし信頼関係を築くことができたなど、少人数開催の利点もあった。</p>
点字・声の広報発行 【 受託事業 】	<p>年間 (月1回)</p> <p>点字や声の広報CDの配布により、文字による情報入手が困難な障がい者へ情報を提供した。</p> <p>実利用者数 7名 延べ利用者数 77名</p> <p>【 事業総括 】</p> <p>「社協だより」に利用案内の記事を掲載し周知を図った。また、当会から民生児童委員などに利用の啓発を行っていたところ、視覚障がいのある住民に利用を勧めていただき新規利用につながったケースがあった。</p>
手話奉仕員養成講座 (入門課程) 【 受託事業 】	<p>入門課程 (全21回)</p> <p>厚生労働省が定めたカリキュラムに基づき、初めて手話を学ぶ方を対象に開催した。自己紹介や簡単な会話ができるまでの手話などについて学んだ。</p> <p>実受講者数 2名</p> <p>【 事業総括 】</p> <p>聴覚障がい者の生活および福祉制度・社会環境について理解を深めるとともに 日常会話を過ごすために必要な手話および表現技術を習得した。</p> <p>また、社会参加をサポートできる人材の育成のため講座修了者に対し手話の技術向上の機会とする手話サークルでの活動を促した。</p>
手話奉仕員養成講座 (ステップアップ) 【 受託事業 】	<p>ステップアップ (全5回)</p> <p>手話入門・基礎講座修了者を対象により深く手話を学び技術を高め、手話の基礎復習やレベルアップを図りながら文法をより深く学んだ。</p> <p>実受講者 5名</p> <p>【 事業総括 】</p> <p>手話養成（入門・基礎）講座で学んだ手話の文法をより深く学び、手話の技術レベルを高め聴覚障がい者と意思疎通支援を行う手話通訳者を養成した。障がい者福祉の概要や手話通訳の役割・責務についての理解と認識を深め、手話表現技術および日本語と手話のスピーチの違いなど基本技術を習得した。修了者には、奈良県手話通訳者ステップアップ講座の受講を促した。</p>

<p>点訳奉仕員養成講座 【 受託事業 】</p>	<p>入門課程 (全6回)</p>	<p>初めて点字を学ぶ方を対象に、視覚障がい者の方の読み書きができる文字（点字）や情報提供の方法などについて学んだ。 実受講者数 2名</p>
<p>聞こえのサポーター養成講座 【 受託事業 】</p>	<p>入門課程 (全4回) 中止</p>	<p>聞こえない・聞こえにくい方々への理解とコミュニケーション方法など、体験をとおして支援の必要性和サポーターの役割について学ぶ。</p>
<p>生活協力員現任研修 【 受託事業 】</p>	<p>3/10 (全1回) 中止</p>	<p>町内の療育手帳保持者また知的（発達・精神）障がいやそれに準じる障がい者（児）に対して日常生活の見守りや社会参加支援を行う生活協力員のスキル向上を目的に多様な障害の特性の理解と配慮の方法について学ぶ。</p>
<p>協力員・奉仕員の派遣 【 受託事業 】</p>	<p>随時</p>	<p>要約筆記奉仕員派遣活動時間 延べ 9時間 奉仕員登録 7名 手話奉仕員派遣活動時間 延べ 149.5時間 奉仕員登録 16名 生活協力員派遣活動時間 延べ 29.5時間 生活協力員登録 44名</p>

	<p>【 事業総括 】</p> <p>要約筆記奉仕員派遣は、難聴者からの派遣依頼のみで派遣回数は伸びなかった。コロナ感染防止の観点から町行事などが中止され派遣につながらなかったことが要因と考えられる。</p> <p>手話奉仕員派遣は前年度と同様に医療機関受診時の通訳におけるニーズが最も多かった。また、3年ぶりに手話奉仕員認定試験を実施し、新たに2名の登録があった。</p> <p>生活協力員派遣では個別ニーズに合わせた一時見守り支援を行ったところ、利用者（小学生）から好評を得て継続利用の希望があった。</p>	
ふれあい食事会 (一人暮らし高齢者) 【 受託事業 】	中止	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催できなかった。
	<p>【 事業総括 】</p> <p>コロナ禍において開催方法の変更などを模索し、福祉こども課と協議したが、開催には至らなかった。</p>	
生活支援体制整備事業 【 受託事業 】	年間	<p>○生活支援体制整備事業協議体（第1層）の開催 (全2回)</p> <p>○平群町安心見守り事業の実施 など</p>
	<p>【 事業総括 】</p> <p>既存の活動内容の充実・発展のために必要とされる支援や、地域住民や関係機関・団体が実施する住民主体の多様な助け合い活動の発展についての支援を行うため継続して協議を行った。</p> <p>○平群町安心見守り事業（令和4年3月31日時点） 地域支え合い推進員：52名（22自治会） 登録者数：107名（一人暮らし高齢者世帯 59名・高齢者のみ世帯 32名 その他 16名）</p> <p>※令和4年1月に地域支え合い推進員の研修を行う予定だったが新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった。</p> <p>○生活支援コーディネーター（第1層）とコミュニティーソーシャルワーカー（CSW）との協働 各自治会（自治会長など）へ訪問を行い、コロナ禍における地域福祉活動についての提案・意見交換や、エリア担当制を導入したCSWと地域との関わりなどについて説明を行った。またCSWや地域包括支援センター、かしのき荘の職員と定期的に地域づくりについて協議を行った。</p>	
	年間	COCORO便事業として、課題を抱える子育て世帯へ毎月の状況確認及び宅食をツールに自宅訪問を行った。

支援対象児童等見守り強化事業

【 受託事業 】

【 事業総括 】

生活福祉資金特例貸付でつながった経済的困窮に陥っている、また、うつ病などの精神的に課題を抱える18歳以下の子育て世帯などに対して、コミュニティソーシャルワーカー（社協職員）が連絡を入れ、状況確認を行った。また、平群町住民生活課の協力を得て、年3回実施したフードドライブで住民から寄附いただいた食材やボランティアが作る軽食を届けることをツールに、児童が健やかに育成されているかなどを目視による確認を行うことを目的に実際に対象家庭を訪問した。コロナ禍で学級閉鎖、給食の停止の際は、対象家庭へ連絡を取り、必要な世帯へ臨時便として状況の確認および「がんばる米（政府備蓄米・寄附などで集まった米）」の配布を臨機対応として実施した。また、地域住民の協力を得て、さつま芋掘り大会を開催するなど、食材の提供も含めて、住民による住民の支えあい活動の実践の場となっている。

〈実績〉

延べ世帯総人数 1730人/年

延べ児童人数 924人/年

老人福祉センター 「かしのき荘」

【 全体評価 】

指定管理者制度による町からの委任を受け、公共施設の適正な運営管理に努めた。

昨年度同様、新型コロナウイルス感染予防のため一部の使用制限や注意喚起、館内消毒などを継続して実施した。行政などの指針に従い、感染者の動向や高齢者が利用されるという施設の特性もふまえて実施している感染防止対策については、様々な制約もともなうが利用者や関係団体から一定のご理解とご協力をいただき、現在まで当施設における集団感染（クラスター）などの発生は報告されていない。

また、施設の老朽化にともなう対応として随時必要箇所の修繕を実施し、施設の安全な維持管理に努めた。

事業名	実施日時等	内容
施設の管理・運営	年間	<ul style="list-style-type: none"> ○安全管理、衛生管理 <ul style="list-style-type: none"> ・設備の保守点検および改修の実施 ・消火・避難訓練の実施 ・利用者の体調不良など、緊急時における対応 ・館内外の清掃業務や浴室を含めた衛生管理 ・施設老朽化への対応 ・新型コロナウイルス感染症の感染予防への取り組み（入館時の受付及び体調確認、注意喚起、閉館後の消毒作業 など） ○利用ニーズの調整 <p>年間利用者数 延べ12,982名</p>

		<p>【 事業総括 】</p> <p>安全かつ快適にご利用いただけるよう施設・設備の維持管理に努めた。新型コロナウイルス感染症の施設内での集団感染（クラスター）発生防止のため、利用者への注意喚起や館内消毒などの対策を徹底して実施した。</p> <p>感染不安による利用控えや奈良県緊急対処措置の発令などにより使用制限を強化した期間もあり、利用者数は昨年同様コロナ禍前に比べて大きく減少した。</p>
各地区送迎サービス	年間	<p>各地区長寿会単位クラブに対し送迎車の運行を行うことで、活動支援や施設の利用につなげた。</p> <p>運行 107回</p> <p>利用者数 延べ 497名</p>
		<p>【 事業総括 】</p> <p>感染予防での利用の見合わせや施設の使用制限などにより、地区長寿会単位クラブの集会による利用は大きく減少したが、必要に応じて送迎を行い、利用ニーズに応えることができた。</p>
情報提供サービス	年間	<p>健康や生きがいづくり、介護予防などにつながる様々な情報を収集し、情報提供に努めた。</p>
		<p>【 事業総括 】</p> <p>高齢者の生活に役立つものや、感染症に対する注意喚起などにつながる情報を収集し、必要に応じて情報提供を行った。</p>
各種相談	年間	<p>高齢者の身近な相談に対応し、必要に応じて関係機関につなげた。</p> <p>看護師による健康相談については、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため休止した。</p>
		<p>【 事業総括 】</p> <p>日常生活における困りごと、老々介護の不安や認知症状など、必要に応じて関係機関と連絡調整し、介護サービスの利用や専門職による支援につなぐことができた。</p>
教養講座	中止	<p>新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止した。</p>
各種団体事務	年間	<p>長寿会・遺族会の活動支援を行うとともに、行政や関係機関との連携強化に努めた。</p>
		<p>【 事業総括 】</p> <p>会の運営が円滑に行えるよう、様々な活動支援に努めた。</p>
一人暮らしサポート事業	中止	<p>新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止した。</p>
からだとあたまの体操	中止	<p>新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止した。</p>

居宅介護支援事業係

【 全体評価 】

要支援・要介護などと認定された方の心身の状態や環境などについてアセスメントを行い、本人や家族と相談しながら自宅でできる限り自立した生活を維持できるようにケアプランを作成し、支援することができた。新規利用者の受け入れに対しては、可能な限り積極的に受け入れを行った。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、モニタリング訪問などは、検温や消毒などの感染対策を十分にとり、実施した。

事業名	実施日時等	内 容
居宅介護支援事業	年間 (月～金)	利用件数 731件 (月平均 61件)
	<p>【 事業総括 】</p> <p>利用者とその家族が、どのような在宅生活やサービスを希望されているかを把握するため、定期的に訪問を行い、相談しながらより自立に向けた在宅生活を送ることができるようケアプランを作成した。</p> <p>その人らしい在宅生活を送っていただくため、各関係機関への連絡調整などを行い、スムーズなサービス利用の支援や適時にサービス内容の見直しなどを行った。しかし、困難ケースや終末期を迎えた利用者を多く受け持つことにより、サービスの調整に時間を費やすことが増え、また、入退院時の多職種連携の強化を行うことによっても時間を費やすことが増えている。</p> <p>担当している利用者の介護認定期間を把握し、場合によっては更新申請の代行や、在宅生活が困難になった利用者に対しては施設入所の相談に乗り、施設との連絡調整などを行いスムーズに入所ができるよう支援した。</p> <p>また、行政から依頼のあった住民に対し、要介護認定の認定調査を行った。</p>	
介護予防サービス 【 受託事業 】	年間 (月～金)	利用件数 30件 (月平均 2.5件)
	<p>【 事業総括 】</p> <p>要支援認定を受けた方の心身の状態や環境、本人や家族の希望などを把握し、介護予防サービス支援計画を作成した。そのプランにもとづいて各関係機関とサービス利用に関する連絡・調整を行い、居宅において日常生活が低下することなく、心身ともに自立した生活を送っていただけるよう支援した。</p>	
介護予防・日常生活支援総合事業 (介護予防ケアマネジメント) 【 受託事業 】	年間 (月～金)	利用件数 67件 (月平均 6件)
	<p>【 事業総括 】</p> <p>事業対象者・要支援認定を受けた方の心身の状態や環境、本人や家族の希望などを把握し、介護予防サービス支援計画を作成した。そのプランにもとづいて各関係機関とサービス利用に関する連絡・調整を行い、居宅において日常生活が低下することなく、心身ともに自立した生活を送っていただけるよう支援した。</p>	

訪 問 介 護 事 業 係

【 全体評価 】

サービス提供責任者として、居宅サービス計画書に沿った訪問介護計画の作成、サービス内容の確認や見直し、調整を行い、利用者が住み慣れた地域でできる限りその人らしく安心して生活できるように支援することができた。また、利用者の自立生活支援のため、利用者と一緒に言う・見守るという見守りの援助も行った。訪問時は検温や手洗い、消毒を実施しコロナウイルスの感染予防をした。

ヘルパー研修会では、介護保険や訪問介護サービスの提供に関する講義、ヘルパーとして知っておくべき薬の知識などヘルパーとしての知識や意識の向上につながる有意義な研修となった。

新規利用者については、介護保険・障害福祉事業共に依頼があれば積極的に受け入れることができた。

事業名	実施日時等	内 容	
訪問介護事業	年間	実利用者数 55名 (延べ利用者数内訳) 要介護1 1,124名 要介護3 888名 要介護5 764名	延べ利用者数 4,914名 要介護2 1,687名 要介護3 451名
	【 事業総括 】 介護保険で「要介護」の認定を受けた方の家庭へ訪問して、在宅で生活できるように、食事・入浴・排泄などの身体介護や、調理・掃除・洗濯・買い物などの生活援助を提供することができた。		
介護予防・日常生活支援総合事業 (訪問型サービス)	年間	実利用者数 33名 (延べ利用者数内訳) 事業対象者 197名 要支援1 557名	延べ利用者数 1,623名 要支援2 869名
	【 事業総括 】 介護保険で要支援1・2、事業対象者と認定を受けた方の家庭へ訪問して、要介護状態への進行の防止と、できる限り自ら家事などを行うことができるように日常生活の自立に向けて支援を提供することができた。		
障害福祉サービス (居宅、重度訪問介護)	年間	実利用者数 8名	延べ利用回数 1,237名
	【 事業総括 】 身体・知的・児童・精神障がい者、または日常生活に支障がある方が、地域で自分らしく自立した日常生活または社会生活を営むことができるように、身体介護や家事援助などの日常生活支援を提供することができた。		
日中一時支援事業	年間	実利用者数 1名	47回
	【 事業総括 】 日中において、一時的に見守りなどの支援が必要と市町村が認めた障がい者などに活動の場を確保し、障がい者などの家族の就労支援および障がい者などを日常的に介護している家族に対して一時的に休息を与えることができた。		

通所介護事業係

【 全体評価 】

新型コロナウイルス感染症対策（検温、消毒、マスクの徹底、介助者のフェイスシールドの装着、利用者および介助者への注意喚起、体調不良者への早期対応等）を徹底して行い、感染者を出すことなく運営することができた。

また、新型コロナウイルス感染症対策により、様々な行事やイベント、レクリエーションなどが制限されるなかではありましたが、利用者がその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるように、利用者家族やその他の関係機関との連携を密にしながら、必要な日常生活上の介護および機能訓練の援助を行い、利用者の生活機能の向上につなげることができた。

事業名	実施日時等	内容
通所介護事業	年間	実利用者数 59名、延べ利用者数 5,104名
	【 事業総括 】	要介護者に対して個々の状況に応じた支援ができるように努め、身体介護・機能訓練を通じ、コミュニケーションを多く図れるように努め、心身機能の維持向上ができるよう支援した。また、家族の介護負担の軽減もできるよう努めた。
介護予防・日常生活支援総合事業 (通所型サービス)	年間	実利用者数 5名、延べ利用者数 466名
	【 事業総括 】	事業対象者・要支援者に対して、個々の状況に応じた支援ができるように努めた。身体介護・機能訓練を通じ、コミュニケーションを多く図れるように努め、心身機能の維持向上ができるよう支援した。また、元気で生き生きと過ごしていただけるよう心がけ、要介護状態にならないように努めた。
基準該当生活介護サービス事業	年間	実利用者数 1名、延べ利用者数 45名
	【 事業総括 】	定期的な通所で、自立した生活ができるように、個々人の障がいにあったレクリエーション、趣味活動や機能訓練などを通じて、楽しみながら心身機能の維持・向上を図っていただくことができた。

地域包括支援センター

【 全体評価 】

高齢化が進み、認知症高齢者やひとり暮らし高齢者などが増加するなか、高齢者などができる限り住み慣れた地域で安心して生活を継続できるよう、地域包括ケアシステムの構築が求められており、専門職が互いの特性を活かし下記の事業などを推進し、各種相談やサービスの調整などを行いさらなる支援体制、地域課題を抽出し地域づくりにも取り組んだ。

今後も、介護保険制度や公的サービス、民間サービスとともに住民の支え合い活動などの社会資源を活用しながら関係機関と連携・協議を行い、地域住民を包括的・継続的に支援を行っていく。

事業名	実施日時等	内容	
総合相談支援業務	年間	○相談件数 (延べ)	
		電話	1,336件
		訪問	545件
		来所	385件
		その他	44件
		合計	2,331件

	<p>【 事業総括 】</p> <p>介護相談や認知症相談など高齢者などに関する相談を受け、情報提供や適切な機関や制度・サービスにつなげ、その後も継続的にフォローすることができた。</p>	
権利擁護業務	年間	<p>○相談件数（延べ）</p> <p>権利擁護 12件</p> <p>虐待 19件</p> <p>○防犯講習・詐欺について 西和警察署員 参加9名</p>
	<p>【 事業総括 】</p> <p>権利擁護：親族が関わる財産管理に対し、成年後見人、担当介護支援専門員と連携して対応し、現在も対応継続中である。</p> <p>虐待：本人からの相談に対し行政と警察連携のもと、知人の協力もあり分離ができ、現在も対応継続中である。</p> <p>今後も、在宅生活者・施設入所者を問わず、高齢者などの権利侵害事例について関係機関との連携のもと迅速に対応を行う。</p>	
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	年間	<p>○生駒郡内介護支援専門員合同研修会</p> <p>第1回（7/16）「アンガーマネジメント」 参加総数36名（平群8名）（ZOOM）</p> <p>第2回（11/4）「口腔アセスメント・歯科医師会の取り組み」 参加総数52名（平群12名）（ZOOM）</p> <p>第3回（1/27）「アルコールなどの依存症について」 参加総数49名（平群8名）（ZOOM）</p> <p>○平群町内介護支援専門員勉強会</p> <p>第1回（12/15）情報交換会 西和7町入退院調整ルールづくり事業・ハラスメント対策・BCPについて 参加者17名（対面形式）</p>
	<p>【 事業総括 】</p> <p>コロナ禍でも感染対策を行い、リモートで郡内の合同研修会は3回開催し、町内では情報交換会を対面式で1回開催した。介護支援専門員がケアマネジメントをするうえで必要な知識を深めてもらうことができた。今後も介護支援専門員がひとりで悩むことなく、適切なケアマネジメントが行えるように支援する。</p>	
指定介護予防支援事業	年間	<p>○介護予防支援数</p> <p>延べ利用者数 1,422名（うち、包括支援センター 390名）</p>
	<p>【 事業総括 】</p> <p>要支援1・2の認定された方に対しアセスメントをもとにケアプランを作成し、出来る限り自立した生活を営めるように支援を行った。</p>	

介護予防 ケアマネジメント業務 (第1号介護予防支援 事業)	年間	○介護予防ケアマネジメント数 延べ利用者数 1,787名 (内、包括支援センター481名)
	【 事業総括 】	要支援者や事業対象者の自立支援を考えながら利用者の目標やその達成のための具体策を共有し実施した。 今後も高齢者が要介護状態になることをできる限り防ぐように支援していく。

一般介護予防事業		<p>○はつらつサロンの開催（5/27、7/29、9/30、11/24、）</p> <p>1/21、3/25はコロナにて中止延べ参加者数：32名</p> <p>○元気アップ教室の開催</p> <p>・前期（全10回） 延べ参加者数：88名</p> <p>・後期（全10回） ⑦～⑩回目はコロナにて中止</p> <p>延べ参加者数：62名</p> <p>後期は活動量計の貸出</p> <p>○介護予防あれこれ講座</p> <p>9/27 運動編：転倒予防 参加者数11名</p> <p>9/22 口腔編 参加者数8名</p> <p>9/24 栄養編 参加者数9名</p> <p>9/27 運動編：腰痛肩こり 参加者数9名</p> <p>○介護予防タオル体操講座（全4回）2月中止</p> <p>申込者に自宅でできるタオル体操のチラシを送付</p> <p>○介護予防ウォーキング講座の開催</p> <p>6/4 参加者数 10名</p> <p>10/29 参加者数 7名</p> <p>○介護予防ラジオ体操講座の開催</p> <p>6/21 参加者数 8名</p> <p>11/30 参加者数 6名</p> <p>○ラジオ体操登録（2団体）</p> <p>・実施地区（H30年度から継続）</p> <p>緑寿会ラジオ体操クラブ、長寿会健康体操クラブ</p> <p>○へぐりいきいき百歳体操（15団体）</p> <p>・実施地区</p> <p>御陵苑、上庄・月見台、竜田川ネオポリス、春日丘、緑ヶ丘、菊美台、長寿会健康体操クラブ、初香台長寿会</p> <p>西宮いきいき百歳体操、椿台百歳体操、若葉台いきいき百歳体操、吉新長寿会、若井百歳体操、三里長寿会、福貴団</p> <p>地</p> <p>○へぐりいきいき百歳体操体験講座開催（R3年度から）</p> <p>7/13、7/20、7/27、8/3（全4回） 延べ参加者数38名</p> <p>・へぐりいきいき百歳体操体験・交流会</p> <p>11/22 参加者数82名</p> <p>・へぐりいきいき百歳体操応援講座</p> <p>2/8「笑って楽しく地域のワ」</p> <p>中止</p> <p>○地域リハビリテーション専門職等派遣事業</p>
	年間	

	<p>【 事業総括 】</p> <p>介護予防の取り組みとして、新型コロナウイルス感染状況をみながら、感染予防対策を行い各講座を開催した。コロナ禍でも自宅のできる「ハートランド体操」の啓発、DVDの貸出ができるようにした。また、『へぐりいきいき百歳体操』の体験講座を新たに開催した。住民運営の通いの場の支援などを行い、住み慣れた地域でいつまでも元気に過ごせる地域づくりを推進した。</p> <p>また、高齢者が要介護状態になることをできる限り防ぐことができるように高齢者が気軽に集える居場所となるように、はつらつサロンを開催した。</p>	
<p>認知症総合支援事業</p>	<p>年間</p>	<p>○認知症相談会 10回開催 延べ相談者数18名</p> <p>○認知症サポーター養成講座 1回開催 参加者数22名</p> <p>○キャラバンメイト交流会 中止</p> <p>○認知症予防「わくわく教室」 ・4月～9月（全11回） 延べ参加者数130名</p> <p>○認知症予防「晴れ晴れ教室」 ・10月～3月（感染急拡大のため、全11回中6回実施） 延べ参加者数74名</p> <p>○認知症カフェ～心晴（こはる）～ 中止</p> <p>○認知症介護家族交流会 中止</p> <p>○認知症講演会 9/7 感染拡大のため中止 講師：ポジティブヘルス笑援隊 藤原達成氏 演題：「認知症は頭と体を使って楽しく予防しましょう！」</p>
	<p>【 事業総括 】</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、飲食を伴うカフェなど中止せざるを得ない事業もあったが、感染予防対策を取り認知症相談会、認知症予防教室、認知症サポーター養成講座を開催した。認知症の人を含む高齢者に優しい地域づくりを目指し、認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進、および認知症予防や早期診断・早期対応にむけての取り組みを実施することができた。</p>	
<p>在宅医療・ 介護連携推進事業</p>	<p>年間</p>	<p>○生駒地区医師会と生駒郡4町が協働で開催 ・地域ケア会議 2回 ・多職種勉強会 1回 「医療と介護の討論会」対面形式 ・在宅医療講演会 1/31（月）「在宅で看とるということ」を予定していたが、コロナ感染拡大にて中止</p> <p>○西和メディケアフォーラム 2回</p> <p>○西和7町退院調整ルールづくり事業</p>

	<p>【 事業総括 】</p> <p>奈良県、西和7町や生駒地区医師会など関係団体などと連携し、会議を開催した。コロナ禍ではあったが、感染対策を行い、多職種間の相互の理解や情報を共有のため対面での討論会も開催した。今後も在宅医療と介護の連携に関する課題の抽出や対応策について検討していく。</p> <p>また、病院と入退院時の情報共有を行い、退院時在宅支援につなげられるルールづくりを構築し、活用した。</p>	
<p>多職種協働による 地域包括支援 ネットワークの構築</p> <p>【 地域ケア会議推進事業 】</p>	<p>年間</p>	<p>○処遇困難事例地域ケア会議の実施（7回 6事例）</p> <p>○自立支援型地域ケア会議の実施（10回 52事例）</p> <p>1月・2月中止</p>
	<p>【 事業総括 】</p> <p>多職種が協働し処遇困難事例について情報共有し、支援内容などを検討することで介護支援専門員の支援を行うことができた。また、自立支援・介護予防に資するケアプランの作成をとおして高齢者のQOLの維持向上を目的として開催される自立支援型地域ケア会議には、助言者として町内介護施設所属の理学療法士および町内薬局の薬剤師に参加してもらい、専門的なアドバイスを得ることができた。その結果、新規の要支援者および総合事業対象者に対して改善可能性の見極めと自立支援に向けたケアマネジメント支援を行うことができた。</p> <p>今後も、より充実した有意義な地域ケア会議を実施するため、助言者として理学療法士・作業療法士・薬剤師・新たに歯科衛生士、管理栄養士の専門職に参加を依頼し開催する。</p>	

ふれあい交流センター

【 全体評価 】

高齢者の福祉向上および健康増進の拠点となるように、「地域包括支援センター業務」と連携を図り、各取り組みを行った。老人福祉センター「かしのき荘」の利用者など広く町民に各種事業への参加を呼びかけ、当施設の取り組みなどに対して理解をいただいた。

今後も、当会が行っている事業や関係団体などと連携を行い、健康の保持・増進を目的とした事業を開催し、地域住民の交流の場・通いの場となるように努める。

令和3年度はコロナ禍継続ではあったが、感染予防に細心の注意を払い、はつらつサロンを開催した。

事業名	実施日時等	内 容
施設の管理及び運営	年間	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の安全管理 各種整備保守点検 館内外の清掃・除草作業など ○コロナ感染予防対策
	<p>【 事業総括 】</p> <p>安全に施設を利用できるように、「施設の安全管理」「各種設備保守点検」「館内外の清掃、除草作業」などを行った。</p> <p>コロナ感染対策としては、施設使用中の換気、施設と物品スリッパや手に触れるものなどの使用前後の消毒を行った。</p>	
高齢者の交流などにかかる業務	年間	<ul style="list-style-type: none"> ○はつらつサロンの開催（年6回予定、4回開催） 5/27、7/29、9/30、11/24、開催 1/21、3/25はコロナ感染拡大にて中止 延べ参加者数：32名 ○自主的な住民交流の場への支援 など 【内容・参加者は「地域包括支援センター」を参照】 ○コロナ感染予防対策
	<p>【 事業総括 】</p> <p>「生きがい対策」「健康の保持増進」「介護予防」「高齢者の交流」に係る業務を、地域包括支援センター業務と連携のもと実施した。</p> <p>コロナ感染対策としては、状況に応じて人数制限を行い、施設利用中の換気および空調の調整。来所前の検温の声掛けや来所時の検温の実施、およびマスクの着用の声掛け、水分摂取の促しやそのときの注意点などの声かけを行った。</p>	